

平成 30 年度 玉川学園高等部入学試験問題

国 語

(注意事項)

- (1) 試験時間は 50 分間、配点は 100 点満点です。
- (2) 問題用紙は冊子 1 部、解答用紙は 1 枚です。
- (3) 解答用紙の受験番号欄には受験番号のみを記入して下さい。
- (4) 解答は、すべて別紙の解答用紙の所定欄に記入して下さい。
- (5) 解答用紙の*欄には、何も記入してはいけません。
- (6) 試験開始の合図があるまでは、問題用紙を開かないで下さい。
- (7) 印刷が不明瞭な場合をのぞいては、質問を受け付けません。

【1】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。設問の関係上、表記を改作している部分がある。

西洋が一八世紀にいたるまで、自然^Aに対して無関心でありつづけたのに対して、古くから日本人は自然を意識してきた。日本には、草木虫魚^{そうもくちゅうぎよ}にはすべてカミが宿っているというアニミズム的な物の見方がある。それは自然に低い価値しか与えてこなかったヨーロッパのキリスト教世界とはAである。

古代において、巨石や巨木はカミが降りてくるところとされていた。磐座^{いわくら}とよばれる巨石、鎮守の森、富士山、滝などは、カミの住む聖なる空間として信仰の対象とされてきた。このような自然のとらえ方に、中国から入ってきた山水画^{さんすい}や風水が影響を及ぼした。山水画は仙人の住む理想郷を描いた絵であり、風水は土地の吉凶^{ききう}を、地形や水の流れ方から占う思想である。日本人が自然を見るときの様式は、こうしてつくられていった。

たとえば、沖合に大小二つの岩がならんでいれば、それは「夫婦岩」とよばれるし、長く伸びていれば「烏帽子岩」となる。河川の浸食によって断崖になっているところは「峽^{せきう}」とよばれる。そうした風景が好まれたのも、風水的に見て縁起がよく、縁起のいい風景が美しいと見られていたからである。

江戸時代には、天橋立^{あまのはしだて}、B、厳島^{いつしま}が日本三景と名づけられた。いずれも海と陸と樹木が絶妙なバランスで配された、風水的にも好ましいとされる空間である。このような様式的な風景美が江戸時代にはもてはやされ、葛飾北斎^{かつしほくさい}の「富嶽三十六景」、歌川広重の「東海道五十三次」^{とうかいどうごじゅうさんじ}、「近江八景」^{おうみ}「江戸百景」などの浮世絵がつぎつぎと発表された。これらのシリーズは、1三とか八といった縁起のいい枚数でまとめられた。ただし、そこで描かれているのは風景というより名所といったほうがいだろう。

名所とは何か。山崎正和氏は次のように説明している。

〔名所とは〕自然の美がもつともCに現われた場所だといえる。海が海らしく山が山らしく、島がもつとも島らしく現われたところが、それぞれの〈名所〉であろう。それはたんにめずらしい地形であるだけでなく、それを見る人間の趣味が投影されて理念化された風景なのである。〔演じられた風景〕

西洋人が長い間、聖書のエピソードや古代ギリシア・ローマの歴史を投影しながら風景を見ていたように、日本人も見たまのままの自然を観察して美しいと感じていたわけではない。あらかじめ頭の中にあつた様式化された理想的風景を投影して、それを美しいと感じていたのである。たとえば、「梅に鶯^{うぐいす}」という言葉があるが、それはけつして鶯が梅の木を好むことを表わしているのではない。梅と鶯の組み合わせが、日本人の理想とする早春のイメージなのである。「牡丹に蝶^{ぼたん}」「紅葉に鹿^か」「月に雁^{かり}」なども同じで、このようなイメージを投影して、日本人は自然を眺めてきたのだつた。

2、こうした日本人の古典的な風景のとらえ方にイを唱えたのが、明治時代の地理学者、志賀重昂^{しがげいさか}である。志賀は『日本風景論』において、日本全土を地理学の目によって見なおそうと唱えた。山を見るにしても、理想化されたイメージを投影するのではなく、岩石の質などからその風景を科学的に考察しようとした。比叡山^{ひえい}を論じるときにも、3 山岳信仰にはふれず、その地形と地質からケイカンを分析した。そのような科学的視線が日本の風景を見る目に導入されたのは、これが初めてだった。

『日本風景論』の影響は大きかつた。その後まもなく発表された国木田独歩^{くにきたひとり}の『武蔵野』^{むさしの}にもその影響が見られた。この作品は、自然科学的な目で武蔵野の雑木林^{ぞくもくりん}の魅力を描いた随筆である。独歩は、名所旧跡を愛でる伝統から自分を切り離し、それまで見過ごされていた雑木林の美しさを発見したのだつた。

独歩のおかげで、いまも武蔵野といえれば反射的に雑木林を思い浮かべる人が少なくないだろう。しかし、実際の武蔵野の雑木林は開発によって、かつてのオモカゲをすっかり失っている。武蔵野Ⅱ雑木林というイメージは、いまではヴァーチャル・リアリティとして、マンシヨンのネーミングなどにその名残をとどめている。

日本と西洋との自然観のちがいがよく表われているのが庭である。内と外との中間地点である庭に、どのように自然を取り入れるか。その方法に、両者の自然に対する意識のちがいがうかがえる。

自然を取り入れるといつても、庭に草木をたくさん植えたり、水を流したりして自然らしさを演出しようとするのは、むしろ西洋のほうである。日本はむしろ逆だ。日本でもつとも有名な庭といえ、室町時代につくられた京都の竜安寺^{りやうあんじ}の石庭^{せいてい}を思い出す人は多いだろう。石庭の名とおり、この庭をコウセイしているのは石と砂である。いわゆる枯山水^{かれすいすい}とよばれるものだ。枯山水は、石と砂だけで、山のつらなる様や、滝や河の流れを表現する。ここでは植物はかえってじゃまであり、極力排除される。

それに対して、西洋の庭は花が中心だ。色とりどりの、なるべく珍しい花がたくさん咲いているほど美しい庭とされる。西洋の庭の楽しみは、花を見ることといってもいい。ガーデンングとは、基本的には季節によって木を植え替えたり、さまざまな花を咲かせたりすることである。

しかし、そうだとすると植物をたくさん植えている西洋の庭の方が、自然を豊かに取り入れているような気もする。だが、そこに西洋と日本の自然観の大きなちがいがあ。西洋の庭に植えられている草花は枯れば取り替えられる。つまり自然は交換可能な物として扱われている。いいかえれば、そこでは見えているものがすべてである。

それに対して、日本の枯山水は、見る者の想像力によって、目には見えない自然のいとなみと一つになるための人工的な装置だといえる。そこではたんに、砂が海を表わしていると理解するだけでは足りない。だいたいなのは、そこに実際に水がたゆたっているのを D に想像し、そのイメージを押し広げていくことである。

枯山水には「主石」と呼ばれる水源となる岩がある。その岩を探しあて、そこから ⑧ フキだす水の流れを思い浮かべ、その水が庭を満たし、渦を巻き、奔流 ⑨ となって山に打ち寄せ、宇宙をも満たしていく。そんな様子を心の中に取りありと想像しながら、庭を眺め、宇宙の中にいる自分を ⑩ 観想する。それが枯山水の味わい方である。

受動的に理解するのではなく、想像力によってはたらきかけて、そこに大海や宇宙を創造していく。枯山水という名がついてはいるが、それは、けっして枯れることのない水の流れや、無限の時間的広がりを感じるための庭なのである。

だが、どうして石なのか。前に述べたように、日本にはカミが降りてくる大石を磐座として信仰してきた伝統がある。石はカミの住まいであり、宇宙の縮図である。そのことを思い、大自然に包まれているような心持ちで、石に向き合うことが日本の庭の味わい方なのである。

このように石や砂を、山や島、川や海のイメージでとらえることを「見立て」という。目の前にある前景の背後に、後景を透かして見る。この「見立て」は、日本人が長年かけて練り上げてきた、美しさを深く味わうための文化のエッセンスといつてよい。

盆栽も、小さな鉢植えの木を樹齡数千年の老木に見立てて味わうものである。茶室も、あの狭い空間を仙人の住む高峰のイタダキなどに見立てるものだ。茶道で、一杯の茶の中に宇宙があるというのも「見立て」であるし、茶道具ではないひょうたんを花入れに使ってみるとい遊び心も「見立て」である。落語も、特別な道具を使わず、一本の扇子を箸に見立ててそばをすすってみせたり、煙管に見立てたりしてさまざまな場面を表わす「見立て」の芸である。

見立ては、もともと漢詩や和歌など文芸の世界で用いられていた修辞法の一つだ。たとえば、古今和歌集のつぎの一首などもそうである。

冬ながら空より花のちりくるは 雲のあなたは春にやあるらむ

ここで冬の空から散ってくる E とは、もちろん F なのだが、それを E に見立てて、雲の向こうは、もう春なのだなど想像しているのである。

見立ては、目の前にある有限なもの奥に、より大きなものや、無限なものを見透かすことである。それは、見かけの閉塞した現実を突破して、新しい魅力や美しさを創造するための知恵でもある。見立てが自在にできるようになるには、するどい感性や深い教養がなくてはならない。日本の伝統的な美意識に「粹」という概念があるが、「粹人」とは、4 「見立てができる人」といってもいいかもしれない。

（田中真知『美しいをさがす旅によう』による）

（注） *アニミズム：生物、無生物を問わずすべてのものの中に靈魂が宿っていると考える考え方。

*風水：古代中国の思想で、都市、建物、住居などの位置を決定するのに用いられてきた、気の流れを物の位置で制御する思想。

*吉凶：「よいことや幸せ」と「悪いことや災い」。 *ヴァーチャルリアリティ：仮想現実。 *観想：そのものの真の姿をとらえようと思いを凝らすこと。

*修辞法：…ことはを効果的に使って適切に言い表す言語技術。 *粹：身なりや振る舞いが洗練されていること。

問一、—— 線部①～⑩について漢字は読みをひらがなで答え、カタカナは漢字に直しなさい。

問二、—— 線部A「自然」B「無限」の対義語を本文中から抜き出して答えなさい。

問三、1 ～ 4 に入る最もふさわしい語を、次の選択肢の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア ただし イ いわば ウ いっさい エ ところが オ たいてい カ あらゆる

問四、A C D に入る最もふさわしいことばを、次の選択肢の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

A	ア	補完的	イ	対抗的	ウ	対称的	エ	対照的
C	ア	独創的	イ	感動的	ウ	典型的	エ	仮想的
D	ア	積極的	イ	理念的	ウ	総合的	エ	分析的

問五、B は日本三景の一つで、紀行文『おくのほそ道』にも記されている名所である。その名称を次の選択肢の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 平泉 イ 松島 ウ 嵐山 エ 屋久島

問六、—— 線部1「このような自然のとらえ方」とあるが、どういうとらえ方か。表している部分を三十字程度で本文中から探し、最初と最後の五文字をそれぞれ抜き出しなさい。

問七、—— 線部2「こうした日本人の古典的な風景のとらえ方」を最もよく表した一文を本文中から探し、最初の五文字を抜き出しなさい。

問八、—— 線部3の中で、筆者は二回「むしろ」という語を使っている。なぜそうしたのかについての説明として最もふさわしいものを次の選択肢の中から選び、記号で答えなさい。

ア 石と砂だけで滝や河の流れを表現する日本の庭よりも、花を見るという西洋の庭の自然の楽しみ方を強調しなかったから。

イ 内と外との中間地点である庭に、どのように自然を取り入れるかは、西洋より日本の方がより意識的だと考えられているから。

ウ 庭に草木を植えたり、水を流して自然らしさを演出したりしようとするのは、西洋より日本の方だという先入観が一般的にあるから。

エ 京都の童安寺の庭と西洋の庭を比較すると、表面上は西洋の方が自然を取り入れている印象を与えていることに着目してほしいから。

問九、—— 線部4「そこでは植物はかえってじゃまであり、極力排除される」とあるが、その理由を枯山水の働きを踏まえて、「植物があると」に続く形で四十文字以内で説明しなさい。

植物があると（四十文字以内）。

問十、—— 線部5「西洋と日本の自然観の大きなちがいが」とあるが、西洋の自然観とはどういうものか。本文中のことばを使って次の空欄に十文字以上十五文字以内で書きなさい。

問十一、—— 線部6「目の前にある前景の背後に、後景を透かして見る」とあるが、枯山水の場合「前景」と「後景」はそれぞれ何にあたるか。「前景」は三文字、「後景」は五文字で本文中から抜き出しなさい。

問十二、—— 線部7「美しさを深く味わう」とあるが、なぜ「見立て」が「美しさを深く味わう」ことにつながるのか。その説明として最もふさわしいものを次の選択肢の中から選び、記号で答えなさい。

中から選び、記号で答えなさい。

ア 美しさを深く味わうためには、枯山水の風景から山や川などのイメージを押し広げていくことしか日本人には考えられなかったから。

イ 美しさを深く味わうためには、日本人が長年かけて練り上げてきた文化のエッセンスを身につけ、見立ての中に感じ取ることが必要だから。

ウ 美しさを深く味わうためには、前景にある目に見えるものだけでなく、後景にある見えないものを想像によって感じ取ることが大切だから。

エ 美しさを深く味わうためには、前景にあるものは表面的なものとして退け、後景の中にある本質的なものを感じ取ることが大事だから。

問十三、E F にそれぞれ漢字一文字を入れなさい。E に入る語は本文中から抜き出し、F に入る語は自分で考えて答えなさい。

問十四、筆者はどのような点に日本文化の価値を見いだしているのか。このことを説明したものととして最もふさわしいものを次の選択肢の中から選び、記号で答えなさい。

ア 古来からある自然観を踏まえて、理念化された風景の中に新しい美意識を作りだせる点。
イ 枯山水の特徴を生かす形で想像力を駆使し、大自然の中に心の安らぎを見いだせる点。
ウ するどい感性や深い教養が育んだ想像力を使って、新しい魅力や美しさを創造できる点。

エ 日本の伝統的な美意識の力を借りて、前景にある見かけの現実を打ち破ることができる点。

【二】 次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。設問の関係上、原典の表記を改作している部分がある。

これも今は昔、多田満仲のもとに猛く悪しき郎等ありけり。物の命を殺すをもて業とす。野に出で、山に入りて鹿を狩り鳥を取りて、いささかの善根する事なし。ある時出でて狩する間、馬を馳せて鹿追ふ。矢をはげ、弓を引きて、鹿に随ひて走らせて行く道に寺ありけり。その前を過ぐる程に、きと見やりたれば、内に地藏立ち給へり。左の手をもちて弓を取り、右の手して笠を脱ぎて、いささか帰依の心をいたして馳せ過ぎにけり。

その後いくばくの年を経ずして、病つきて、日比よく苦しみ煩ひて、命絶えぬ。冥途に行き向ひて、閻魔の庁に召されぬ。見れば、多くの罪人、罪の軽重に随ひて打ちせため、罪せらるる事いといみじ。我が一生の罪業を思ひ続けるに、涙落ちてせむ方なし。

かかる程に、一人の僧出で来たりて、のたまはく、「汝を助けむと思ふなり。早く故郷に歸りて、罪を懺悔すべし」とのたまふ。僧に問ひ奉りて曰く、「これは誰の人の、かくは仰せらるるぞ」と。僧答へ給はく、「我は汝鹿を追うて寺の前を過ぎしに、寺の中にありて汝に見えし地藏菩薩なり。汝罪業深重なりといへども、いささか我に帰依の心の起りし功によりて、吾いま汝を助けむとするなり」とのたまふと思ひてよみがへりて後は、殺生を長く断ちて、地藏菩薩につかうまつりけり。

〔宇治拾遺物語〕小学館・新編日本古典文学全集による

(注) *郎等…武士の家来。 *業…生業。生計を立てていくためのおこない。 *善根…良い報いを受けるための行為。 *矢をはげ…矢をつがえる。

*帰依…神仏を信仰すること。 *日比…数日間。 *閻魔の庁…閻魔大王が死者の刑罰を裁定する王庁。 *打ちせため…打ち責める。

問一、——線部A「助けむ」・B「つかうまつり」を現代仮名遣いに直して、すべてひらがなで答えなさい。

問二、——線部①・④の本文中の意味として最もふさわしいものをそれぞれの選択肢の中から選び、記号で答えなさい。

- | | | | |
|----------|---------|-----------|------------|
| ①「いささかの」 | ア ささやかな | ④「いといみじ」 | ア あまりに悲しい |
| イ わずかばかり | ウ 少しも | イ 大変すばらしい | ウ とても人数が多い |
| エ いつもどおり | | エ たいそうひどい | |

問三、——線部②・③の現代語訳(口語訳)として最もふさわしいものをそれぞれの選択肢の中から選び、記号で答えなさい。

- | | | | |
|-----------------|----------------|-------------------------|---------------------------|
| ②「いくばくの年を経ずして、」 | ア 何年も経たないうちに、 | ③「日比よく苦しみ煩ひて、命絶えぬ。」 | ア 数日の間に持病が悪化して、生死をさまよった。 |
| イ その年を越さないうちに、 | ウ いくつか歳をとるうちに、 | イ 普段から大病に苦しんでいて、命を落とした。 | ウ 数日間生死をさまよったが、命は落とさなかった。 |
| エ あまり歳をとらないうちに、 | | エ 何日か病気にひどく苦しんで、亡くなった。 | |

問四、——線部⑤「我が一生の罪業」の内容を端的に表す部分を本文から十五文字以内で抜き出さない。

問五、——線部⑥「涙落ちて」の心情として最もふさわしいものを次の選択肢の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 悲しみに暮れるしかない状況で、神や仏に救いを求め祈る気持ち。
イ どうしようもなくなった状況で、自分の過去の罪を悔いる気持ち。
ウ 逃げ出したいができない状況で、自分を裁く閻魔大王を恨む気持ち。
エ 泣きつく相手がいない状況で、生きていた頃の仲間を恋しく思う気持ち。

問六、——線部⑦「一人の僧」とは誰か。本文から五文字以内で抜き出さない。

問七、——線部⑧「汝を助けむと思ふ」について、次の問いに答えなさい。

(1)「汝を助けむと思ふ」ようになった根本には、「郎等」のどのような行動があるか、具体的に説明しなさい。

問八、——線部⑨「罪を懺悔すべし」について、「郎等」の「懺悔」の内容を本文中から二十五文字以内で抜き出し、最初と最後の三文字を答えなさい。

問九、この話の教訓として最もふさわしいものを次の選択肢の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 行いが悪い家来に対しても、主君である武士は更生の手助けをしてくれる。
イ 神仏を信仰している信者たちは、信仰心のない悪党すらも時には助けてくれる。
ウ 悪事ばかり行っているも、神仏は人の心の中に住み、時には救いとなってくれる。
エ 神仏を信仰する心を持つ人は、窮地から救い出してもらえることがある。
- 問十、この作品は「説話」として分類されるが、「説話」の説明として最もふさわしいものを次の選択肢の中から選び、記号で答えなさい。
- ア 人々の間で伝承されてきた話。 イ 人々に主張を伝えるための論説文。
ウ 説法のみを目的に作られた話。 エ 宗教性を排除し書き残された物語。

【三】 次の文を読んで、後の問いに答えなさい。

(一) A君はB君から転校を告げられて、涙を流して悲しんだ。

(二) A君は友達に助けられながら盛大な送別会を開き、B君から「転校は寂しいが思い出ができて嬉しい」と言ってもらったそうだ。

問一、(一)の文を文節に区切り、文節の数を算用数字で答えなさい。

問二、(一)の文に入っている動詞をすべて指摘し、基本形(終止形)に直して答えなさい。

問三、(二)の文に入っている形容詞に——線を、形容動詞に——線を引きなさい。

問四、(二)の文に入っている助動詞を下の例にならってすべて四角で囲み、それぞれの文中での意味を答えなさい。

問四の例
僕は学校へ行きます。 丁寧